

## 連載／東九州龍谷高・ナムナムガールズの歩み③

宗門校・東九州龍谷高校（大分県中津市）の「ご縁づくりグループ」が昨年12月3日の公演で9年間の活動に幕を閉じた。その活動は、多感な高校生に「生きる指針」を与えてきた。卒業公演にはナムナムガールズの2人の先輩（卒業生）が駆けつけていた。

# 卒業しても「生きる指針」

最後の公演を見守っていたのは2020年に卒業し、現在22歳となる金尾侑香さんと谷川祐介さん。2人は「先生（紅椽聖教諭＝同市・雲西寺住職）から『ナムナムは今年で終わり』と聞き、最後を見届けたいと思った」と語る。

谷川さんは数少ない男性メンバーだった。「高1の春、



ナムナム5期生の金尾侑香さん(左)と谷川祐介さん

先生に『マネージャーしない?』と誘われたのがきっかけ」と笑う。それまで在籍した男子は1人だけだったが、この年は同級生が3人も入部。主に機材の運搬や音響など裏方で支

え、途中からは公演の導入で「前説係」を務めてステージを盛り上げた。谷川さんは今、地元の高齢者施設に勤めている。「グループでいろいろなお寺に行かせてもらい、年配のご門徒さんと接したり幅広い世代の人の前で話した経験が、今の社会人としての基盤となっている」と落ち着いた口調で話す。「施設の利用者さんに『仏教の学校に通っていた』と伝えると喜んでくれるのがうれしい」と語った。

金尾さんは第5期のキャプテンを務めた。系列の東九州短期大学に進み、保育士になった今もグループでの学びを大事にしているという。「毎日学校で唱和していた『私たちのちかい』を、グループの公演でも自分の言葉で紹介してきた。その中でも『自分の殻に閉じこもることなく』や『むさぼり、いかり、おろかさ流されず』



最終公演のアンコールにはOGの金尾さん(後列右から2人目)も参加した

という言葉は今でも大切にしている。私自身にとっても、そして園児にとっても大切にしたい言葉」と話す。「本願寺や各地のお寺はもちろん、3年生の夏に日韓の中高生の交流行事に招かれて韓国でステージに立ったのが懐かしい。台本や踊りを覚えるのが大変だったけど、楽しかった」と笑う。

最後のステージを見届けた2人は、少し寂しそうな表情を浮かべていたが、「ナムナムガールズがなければ、こんな経験や考え方はできなかった。グループを作ってくれた先生に感謝したい」と力強く語った。